

山内マリコさん

作家

女性を中心に共感を集める作家の山内マリコさん。
上京して初めて住んだまち・吉祥寺が創作に与えた影響とは。

2006年、25歳の時、小説家になりたくて京都から上京する際、中央線沿線で部屋を探しました。私は地方に住むサブカル好きだったので、漫画家のみうらじゅんさんが「サブカル系は中央線沿線に住むものだ」と何かに書いていたのを鵜呑みにしていたんです（笑）。自分の条件に合う部屋が見つかって最初に住んだのが吉祥寺でした。「棟図かずおさんと宮藤官九郎さんが住むまち」というのもポイントが高かったですね。吉祥寺北町の古いアパートで猫と暮らしながら、ひたすら小説を書いている市役所近くの郵便局から出版社の文学賞宛てに応募する日々。縁が多くて静かで、住んでいる人はみんな幸せそうで、環境的には申し分なかったのですが、まだ何者でもない私は一人で悶々としていました。

のにも多大な影響を与えたと思います。2008年に文学賞を取ることができたのですが、よそ者にも寛大で文化的な吉祥寺の環境が私を支えてくれたような気がしますね。

私が吉祥寺に住んでいた時期は、伊勢丹がコピスになり、駅ビルのロンロンがアトレに、というように、ちょうどまちが変化する過渡期でした。そんな中で私が惹かれたのは、新しい店よりも古くからある個人経営の店。今回の取材場所「ジョン・ヘンリーズ・スタディ」もお気に入りの店のひとつですが、初めて来た時、この雰囲気は昨日今日で作れるものではないなと感激したのを覚えています。吉祥寺は大きなまちなので大手のチェーン店が増えるのは仕方ないけれど、小さくても個性的で魅力的な店があることが、そのまちの価値を高めているのではないのでしょうか。そのことに気づいたオトナが、足しげく通って応援していかないとけないんでしょうね。私もその一人でありたいです。

山内マリコ（やまうちまりこ）

1980年、富山県生まれ。大阪芸術大学映像学科卒業後、京都でのライター生活を経て上京。2008年「女による女のためのR-18文学賞」読者賞を受賞。2012年『こは退屈迎えに来て』で作家デビュー。著書に『アズミ・ハルコは行方不明』『かわいい結婚』など。最新刊は『あたしたちよくやってる』。

個性的で
魅力的な店が
頑張っている姿を
見るとホッとします

